

(1) 愛知県トラック協会

～第12回 勉強会を終えて～

- 産業界の共助の課題を話し合っ、上がった課題に対してどのような共助が必要だと思ったか

共助を実現するためには、情報の発信と共有が欠かせないと感じました。

災害が発生した際に、道路がどうなっているのか、困っている人はどこにいるのか、何に困っているのか、どこで何ができるのか、などお互いが知らなければどれだけの備えがあっても機能せずに終わってしまいます。

そして、共助とともに自助のための教育も必要であると考えさせられました。

まず自分が助からなければ人を助けることもできなくなります。

一人でも多くの人を助ける側にまわることができれば、公助だけでは行き届かない範囲で共助が生きてくると思いました。

自助は共助につながり、共助は公助につながると再認識した勉強会となりました。

- 自団体が中部防災推進ネットワーク(または参画団体)に期待する共助

「顔が見える」が強みのネットワークなので、これからもつながりを大事にしていきたいと思っています。最初から参加している方にとっては当たり前の情報であっても、(私自身もそうですが)人事異動などで初めて参加する方にとっては初めての情報となります。

お互いに常に情報を共有しあい、同じ目的に向かって進んでいけることを願っています。



<愛知県トラック協会 URL>

<https://ssl.aitokyo.jp/>

(2) 事業継続推進機構

～災害時の産業界の共助について～

・災害時の産業界の共助、これは1995年の阪神・淡路大震災で顕在化して、今日まで続いている難問です。企業防災や事業継続に長年取り組んできた経験から申し上げますと、キーワードは「遠く of 同業者、近く of 異業種」との連携です。

・阪神・淡路大震災で神戸新聞社は本社とその中にある新聞印刷の輪転機が大破しました。しかし、神戸新聞は1月17日の夕刊を神戸市内各所の避難所に配布しました。これは、事前に京都新聞社といざという際には相互に助け合うという協定を結んでおいて、それを発動したからです。東日本大震災では仙台市沿岸部にある鈴木工業という廃棄物処理の会社が壊滅的被害を受けました。鈴木工業は医療廃棄物処理を多く請け負っている会社です。この会社が動かないと仙台市内の多くの病院は診療を続けることができません。しかし、大震災の2日後から仙台市内の病院から医療廃棄物の収集を再開し、事前に協定を結んでいた山形県にある同業者に依頼して処理を再開しています。被災地内でできることは非常に限られています、いかに被災地外の「復旧資源」を活用するか、それが鍵です。

・もう一つは、近く of 異業種との連携です。今回のコロナウイルス禍でも明らかになりましたように、業種によって災害で受けるインパクトに差異があります。災害時には、通常操業ができないことにより、「遊休化する資源」が出てきます。実は、それは近くにある異業種にとっては、「逼迫している資源」かもしれません。このことは普段はなかなか気が付かないものですが、日ごろから、取引関係のない近隣の会社とも情報交換しておく、いざという際に役立ちます。

・中部防災推進ネットワークの参画団体の皆様は、全国的なネットワークをお持ちです。災害時にいかに被災地

外とのネットワークを活用して事業継続・事業再開の迅速化を図るか、ぜひご検討いただければ幸いです。

<BCAO 事業継続推進機構の URL>

<https://www.bcao.org/>

3. 本ネットワークの参画団体からのお知らせ (防災イベントの予定等)

(1) 内閣府

～企業の事業継続及び防災に関する実態調査を公表しました～

・企業のBCP策定の状況など、BCP・防災に関する調査を実施しました。

ご興味のある方は、内閣府防災のホームページをご覧ください。

<https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kigyoushikou/index.html>

(企業の事業継続及び防災に関する実態調査)

(2) 日本損害保険協会

○イベント名

親子で学ぶ 防災・減災ピクニック

○開催日時

2022年7月31日(日) 10:00～12:30

○開催場所

名古屋市昭和区妙見町2番地の9

(日赤愛知災害管理センター棟)

○概要

名古屋大学減災連携研究センターの福和伸夫センター長をナビゲーターに迎え、今後30年以内に発生すると言われている南海トラフ巨大地震などの自然災害について、

親子で体験・体感しながら防災・減災を学ぶことにより、家族の防災力を高めることで、将来に備えるためのプログラムとなっています。

また、昨年度に続き、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院の協力により、救急車や災害医療拠点の見学などもできます。

○URL

https://www.sonpo.or.jp/news/branch/chubu/2022/2206_01.html

4. 編集後記（事務局・協力団体のひとこと）

中部防災推進ネットワークの事務局を務めております、
と
申します。普段は、名古屋大学減災館内の一室にて勤務しております。

今年度より、初めて防災に関わることになり、慣れない業務と環境に戸惑うことばかりであるとともに、1日として単調な日は無い目まぐるしい毎日でしたが、周りの皆様に支えられ、あっという間に3ヶ月弱が過ぎようとしています。

先月の本ネットワーク第12回勉強会においては、Zoomのブレイクアウトルーム機能を活用したオンラインワークショップという試みが初めて行われました。グループのメンバーの中で最も知識も経験も浅い中、ファシリテーター役を務めるのは大変重責でしたが、グループの皆様が「参加している」という意識を持っていただけるようなファシリテートを心がけました。

最初は少し沈黙の時間も流れましたが、徐々に参加者同士で、意見等に対して「それはどういう意味？」など話題を深めていく議論ができたのではないかと思います。オンライン上で「顔の見える関係」が構築できた貴重な時間でした。

災害時に重要なのは、平時からの「顔の見える関係」である、ということは、この3ヶ月何度も耳にしている言葉です。どんな組織で、どんな人で、どんな仕事をしているか、片鱗を知っているだけでも、きっと役に立つ時があると思います。

話は変わりますが先日、あいち・なごや強靱化共創センター主催の「産業防災研究会(仮称)」という新しい会を、完全対面方式で行いました。

こちらは48団体の70名近くの皆様のお声を直接聞ける貴重な機会でした。どんな場所からでも参加できるというオンラインの利点は尊重しつつ、本ネットワークにご参加の皆様方とも直接お目にかかれる機会を願っております。

まだ防災1年生ですが、これから本ネットワークの事務局として、ご参画の各団体の皆様の連携を推進し、相互協力のきっかけとなるような「場」をご提供できるよう努力して参りますので、今後ともよろしく願い申し上げます。